

令和6年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①SSHの取組と各教科での取組を関連させ、問題解決能力の育成を図る。 ②新たな教育課程に基づく生徒の進路実現を達成するために指導環境の整備と教育課程の検証・改善および生徒の学習体制の構築を行う。	①ICTを活用した授業展開を行い、学習内容の質を高めるとともに、SSHの取組と教科の取組を結びつける。 ②「指導と評価の一体化」を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、生徒の自主的な自宅学習の向上を促す。	①各教科で、引き続き授業改善に取り組み、ICTを効果的に活用する。 ①デジタルポートフォリオ等を利用し、生徒一人ひとりが教科を越えて学びの総活ができる仕組みを構築する。 ②指導と評価が一体化した年間指導計画を整え、教科を越えて主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を進める。	①各教科で、授業改善に取り組み、その成果としてデジタルポートフォリオの活用ができたか。 ②指導と評価が一体化した年間指導計画が立てられているか。 ③教科を越えた授業改善が行われたか。
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	①日々の学校生活や生徒会活動の場面で、自発的・主体的に行動できる人材の育成を図る。 ②教育相談体制を充実させ、支援が必要な生徒に対して柔軟な働きかけを行う。	①学校行事や部活動など学年を越えた集団活動を通して、個々の役割を自覚し、それぞれの責任を果たす姿勢を身に付けさせる。 ②支援が必要な生徒の情報を職員全体で共有し、すべての生徒が健康で安全な学校生活を送れる体制を整える。	①主体となる生徒との連携を密にし、情報共有を行い、支援・指導が必要なポイントを絞り安全で安心な活動を保障する。 ②校内での教育相談担当者を中心に、家庭やSC・SSWと連携を図りながら課題の解決をサポートする。	①健康的で安全な行事が実施されたか。生徒の主体性を支援することができたか。 ②課題を抱える生徒に対し、様々な視点を持った多くの職員がかわるごとによって、多角的に支援することができたか。
3	進路指導・支援	①なりたい自分を探求し、その実現を目指すための進路行事や学習活動を充実させる。 ②個別面談、教員研修を通じ、新たな教育課程や入試制度に柔軟に対応することのできる支援体制を構築する。	①生徒の個々の進路目標を見据えた進路指導・進路行事を計画し、その充実を図る。 ②面談や模擬試験の機会を活用し、生徒の悩みや進路実現に向けた適切な支援を行う。	①生徒が多様な選択肢を理解し、具体的な進路をイメージできるような進路指導・進路行事を計画し、その充実を図る。 ②模擬試験の振り返りや面談を通して、生徒の強みや弱みを把握し、具体的な対策や学習計画を支援する。	①適切な時期・内容でキャリアガイダンスを行うことができたか。 ②模擬試験の振り返りや面談を通して、生徒の課題の把握やフィードバックができたか。
4	地域等との協働	①家庭や地域、同窓会等との協働を進め、信頼される学校作りの更なる発展を目指す。 ②SSHの活動において他の教育機関や企業・地域との連携を強め、コンソーシアムの構築を目指す。	①保護者や地域住民等と協働・連携した教育活動や地域貢献活動等を充実させ、様々な手段で外部に発信する。 ②SSH指定の取組について、地域社会等にPRするとともに、大学等との連携を強化していく。	①学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて、地域の小中学校と連携した実績やSSHの取組について発信する。 ①同窓会活動への理解を深めるために協働して活動の改善点を検討していく。 ②SSH運営指導委員である大学教授等の指導・助言を生徒研究に直接反映できる仕組みを構築する。	①学校ホームページ、学校説明会、文化祭及び地域貢献デーなどの行事を通じて本校の取組を発信できたか。 ①同窓会と連携し活動への理解が深められたか。同窓会入会者の数が増えたか。 ②SSHの活動の中で大学教授等の指導・助言を生徒研究に反映できたか。
5	学校管理 学校運営	①働き方改革に向けて、TeamsやICT機器の使用方法を更に思索し業務の効率化を図る。 ②生徒主体の学校行事等をさらに発展させ、課題発見・解決能力の育成を図る。 ③社会から求められる様々な教育ニーズに対応できる教員指導力の向上を目指す。	①業務の効率化に向けて有用なツールの導入を検討する。 ①各種の研修を通じて、教職員のICT活用スキルを高める。 ②学校行事の際に、ICT機器を積極的に活用していく。 ③人権や教育相談の視点から生徒との関わりを再点検する。	①一部の科目で試験的に新たなツールを導入し運用に向けた準備を整える。 ①各種の研修を通じて、教職員のICT活用スキルを高める。 ②文化祭や陸上競技大会等で、TeamsやForms等を活用し、ペーパーレス化や円滑な運営を図っていく。 ③様々な研修会を通して、人権や教育相談といった視点から、これまでの教育活動を見直す機会とする。	①次年度の予算を確保し本格導入に向けた準備ができたか。 ①教職員対象のICT活用スキルを高める研修が実施できたか。 ②TeamsやForms等を活用し、連絡やアンケートがスムーズに行われたか。 ③研修を通じて、職員の共通理解が深まったか。